

上野天神祭：だんじり巡行説明

行列は三つの主要な部分、神輿行列、鬼行列、「だんじり」と「しるし」行列で構成されている。行列の先頭は神輿行列で、神官や町内の人々が神輿とその他の神道関連物を運ぶ。鬼行列の先頭は大御幣で、竹の幟に紙垂がついている。高さは6メートルを超え、重さは110キログラムを超える。5人の男性が支え持つ必要がある。中央の支柱一人と四方の色の異なる支柱が4人によって支えられる。支柱の色は、火、水、木、金、土で中国の伝統的思想である五要素を表している。

大御幣に続き、鬼行列は、「役行者」と「鎮西八郎為朝」の2つの部分に分けられる。四鬼会の4つの町内からの参加者は、伝統的な衣装と恐ろし気な能面で鬼に扮し、伊賀の町を巡り、乱暴な身振りで観客に挨拶する。地元の人々は、鬼を見て子供が泣くと健康に育つと信じているので、両親は恐ろしい鬼役に向かって子供を押す出す習慣がある。太鼓の打ち手は各行列に付き従い、音楽を奏でている。

行列の最後は、「だんじり」と「しるし」の山車で、それぞれ町内から100人以上が出て曳く。それぞれの「だんじり」は「しるし」と対になっており、町を象徴し、長年維持されてきた。昔は、祭りの責任者である町内の人々だけの参加が許されていたが、若い世代が伊賀を離れ、居住者の高齢化により、この習慣は変化し始めた。「だんじり」を曳く人々に加え、囃子方は祭囃子を奏でるために「だんじり」に乗っている。各町内の参加者は、地域ごとに異なる法被を着用している。

毎年1,000人以上の人々が行列に参加し、鬼に扮したり、山車に参加したり、囃子を奏でたりしている。行列は伊賀の街を2キロ近く巡行する。この貴重なお祭りは、近年150,000人以上の外国人と日本人の訪問者を集めるようになった。